

まち∞未来ミーティング（岸本保健福祉センター） 意見記録

会 議 名	まち∞未来ミーティング（岸本保健福祉センター）			
開催日時	令和 8 年 7 月 28 日(火)	9 時 30 分～11 時	開催場所	岸本保健福祉センター
参 加 者	伯耆町	9 名		
	住民	3 名		
概 要	・ 町長から町政提案説明・意見交換			
その他				

（参加者意見及び町側回答）

No	参加者意見	町側回答等
地域コミュニティと健康づ	仕事を退職後は地域活動や趣味、健康づくりに取り組む機会が増えた。健康とコミュニティが地域づくりにおいて重要である。 町長の考えは？	健康づくり、人づくり、つながりづくりは一体であり、地域活動や小さなコミュニティの維持が大切だと考える。 コロナ禍で中止・縮小された地域行事について、すべてを元に戻すことは難しくても、子どもが参加できる行事はできる限り残していくべきではないか。 子どもの頃の地域行事の思い出が、将来の地域愛や郷土愛につながると考える。
集落放送、防災行政無線について	集落内で使用している有線放送設備が老朽化しており、音声聞こえにくい、修理が難しいといった課題がある。 防災行政無線の更新にあわせて、集落ごとの連絡にも活用できる仕組みを検討してほしい。 また、ある集落では、区長が放送内容をLINEにも掲載しており、放送を聞き逃した場合でも文字で確認できるため、有効である。一方で、放送原稿の作成、放送、LINE掲載を区長が行うことは負担が大きいため、放送内容を自動的に文字化・配信できる仕組みを検討してほしい	防災行政無線の設計において、集落放送への活用も検討項目に入れている。 今後、町の公式LINEを活用し、登録者に対して地区や集落ごとの情報を届ける仕組みも検討していく。
健康診断・検診体制	健診を集団健診会場だけでなく、かかりつけ医療機関でも受けられるようになってきており、利便性が高まっている。	西部医師会等と連携しながら、胃がん検診、特定健診、高齢者健診などを医療機関で受けられる体制づくりを進めてきた。 また、町内医療機関との意見交換会を行い、緑内障検診など新たな取り組みも行っている。 引き続き受けやすい検診体制を整備していきたいと考える。

No	参加者意見	町側回答等
風力発電	風力発電事業の進捗状況は。	事業者が住民向けの勉強会を複数回開催していること、現在は環境影響評価の手続きが進められており、準備書の提出時期が示されているものの、これまでも時期がずれ込んできた経緯がある。 また、再生可能エネルギーの推進そのものに反対するものではないが、計画されている風車は非常に大型であり、山間部に設置することへの安全性、耐震性、風況への対応、機器の認証などについて、住民が納得できる説明が必要であると考えます。
空き家対策	集落内に危険な空き家が複数あり、特に通学路沿いの空き家については安全面の不安がある。行政として対応できないか。	空き家は原則として所有者や相続人が管理・除却すべき個人資産であるが、町としても除却費用への補助を行っている。 また、危険度が高く、所有者等による対応が困難な場合には、手続きを経た上で略式代執行により除却した事例がある。 区長への聞き取りでは町内に相当数の空き家があると見込まれており、危険空き家への対応とあわせて、まだ活用可能な空き家については空き家バンクを通じて移住・定住につなげたい。
地籍調査	地区内の地籍調査について、現地立会後に長期間進展が見られないとの指摘があった。地元の土地の経緯を知る高齢者が亡くなりつつあり、早期に課題を整理して前に進める必要がある。 また、当初説明とその後の説明に違いがあったことや、委託業者の担当者変更等により、住民の納得が得られていない部分があるのではないか	地籍調査に関する課題について改めて確認する。 また、国の補助金が以前より減少しており、事業の進捗には制約もある。

No	参加者意見	町側回答等
スクールガード・見守り活動	通学路での見守り活動や子どもへのあいさつについて、交通事故や犯罪防止の観点から、地域の大人が子どもを見守ることは重要である一方、見守りを行う側も自らの安全確保を徹底する必要がある。	長年にわたるスクールガード活動への感謝が述べられた。事故が起きていないこと自体が大きな成果であり、地域の大人が声をかけ、見守ることが、子どもの安心や地域とのつながりにつながっている。 また、子どもたちは地域の大人の声かけや見守りを受けて、地域には優しい人が多い、温かい地域であると感じているとの学校アンケートの結果だった。
移住者から見た地域のあいさつ文化	移住者の参加者から、都市部では大人が子どもに声をかけることに慎重な雰囲気があり、地域で子どもからあいさつされた際に一瞬戸惑った経験がある。 伯耆町では、子どもや地域住民が自然にあいさつを交わす文化があるが、都市部からの移住者にとっては慣れない場合もある。移住者に対して、地域ではあいさつを交わすことが自然であり、防犯や見守りにもつながっていることを伝えることが大切だと思う。	不審者対応として「知らない人についていけない」ことは引き続き重要である一方、地域で日常的にあいさつを交わすことは、防犯や地域のつながりづくりにも有効であると考えます。
ふるさとキャリア教育・シビックプライド	情報発信は行われていても、受け手側に「自分も町に関われる」「自分の意見が反映される」という実感がなければ、情報は届きにくいのではないかと。 子どもだけでなく、大人にも町政や地域活動に関心を持ってもらう工夫が必要だと考える。	ふるさとキャリア教育やシビックプライド形成事業について、子どもたちが地域での体験活動や課題解決に取り組むことで、地域への愛着や貢献意識を育てることを目指している。 中学生が地域ボランティアに参加し、地域の人に喜んでもらえたことを嬉しく感じている事例や、高校生サークルの活動が復活している。 将来、地域を支えるリーダーを育てるためにも、小・中学生の段階から地域に関わる経験を積むことが重要である。 教育理念の中に「社会の一員として」という視点を入れており、子どもたちが身近な課題を見つけ、解決に向けて考える経験を通じて、コミュニケーション力や合意形成力を育てていきたい。